

Wú níng sǐ yú èr sān zǐ zhī shǒu  
无宁死于二三子之手むし じさんし  
無寧ろ二三子の手に死なん<子罕第九>うえだ あつ お  
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

かなり晩年のことと思われませんが、孔子が一時危篤状態に陥ったことがあります。あるいは諸国を周遊中の出来事であったかもしれません。若い弟子たちとしては、常に想定していたとはいえ、聖人とも崇める師匠が死ぬということは一大事です。他の弟子たちがどう反応したかについては記録がないのでよくわかりませんが、ここに登場してくるのは子路です。『論語』には次のように記されています。

「子疾病。子路使門人为臣 (Zǐ jí bìng。Zǐ lù shǐ mén rén wéi chén)」(子、疾、病なり。子路、門人をして臣たらしむ<子罕第九>)。孔子の病状が悪化した。この場合「疾病」とは、病状が重くなることをいいます。そこで子路は門人たちに命じて、臣下の礼を以て孔子の最期を看取る準備をさせた。この場合の「門人」は子路自身の門人と見ることもできし、孔子の門人と見ることもできます。旅先で孔子に万一のことがあれば、取り敢えず「殯」の儀を最年長の子路が取り仕切ることになっていたのでしょうか。ところが幸いなことに孔子の病状は回復に向かいました。「病间 (Bìng jiàn)」(病間なり)。「間」とは病気が少し良くなることをいいます。

子路としては恩師の最後に相応しい最高の礼を尽くしたつもりでいました。ところが病状が回復した後、孔子は怒りを露わにしました。その理由は、死んでもいないのに葬儀の準備をしたからではありません。中国では親が重病にかかった場合、息を引き取る前に葬儀の準備をすることは、最善の孝行とされています。後に病状が回復することがあっても、決して責められることはありません。孔子が怒ったのは次の理由からです。

「久矣哉！由之行诈也。无臣而为有臣。吾谁欺？

欺天乎？(Jiǔ yǐ zhāi! Yóu zhī xíng zhà yě。Wú chén ér wéi yǒu chén。Wú shuí qī? Qī tiān hū?)」(久しいかな、由の詐りを行うや。臣無くして臣有りとなす。吾れ誰をか欺かん。天を欺かんか)。子路はずいぶん長い間、人をだましおったな。わたしには臣下がいなのに、さも有るように見せかけおって。こんなことをされると、わたしは天を欺いたことになるではないか、と。

当時の孔子は、既に大夫の職を辞し、庶人の身であった。庶人である以上、葬儀も庶人並みでなければならぬ。臣下を付けるなど以てのほか……。各人が互いの分を守り、出過ぎた真似をしない。個人的感情による区別も許さない。孔子にとって、これが社会の安定を回復するための基本条件であり、謂わば天の教えでもありました。

とはいえ、孔子は子路たちの思いを、決して無視していたわけではありません。そしてさらに続けます。「且予与其死于臣之手也，无宁死于二三子之手乎！且予纵不得大葬，予死于道路乎？(Qiě yú yǔ qí sǐ yú chén zhī shǒu yě，wú níng sǐ yú èr sān zǐ zhī shǒu hū! Qiě yú zòng bù dé dà zàng，yú sǐ yú dào lù hū?)」(且つ予は臣の手に死すより、無寧ろ二三子の手に死なんか。且つ予縦い大葬を得ずとも、予道路に死なんや)。それに、わたしは臣下に看取られて死ぬより、お前たち普通の者に看取られる方がよっぽどまだ。立派な葬式はしてもらえないかもしれないが、道端に野たれ死にするわけでもないだろう、と。

臣下ではなく、愛する弟子たちに見送られたい。これは孔子の本音でもあったようです。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)